

自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	履修状況については、生活実践科学科では必修科目となっており、全学生が履修する。幼児教育学科については選択科目となっているが、丁寧な履修指導を行うことにより、すべての学生が履修している。現在のところ、それ以上の特別な対応を必要としていない。修得状況については、両科目ともオンデマンド型の科目となっているため、教育開発センターにて講義動画の視聴状況及び課題の提出状況等を細かくチェックして必要な対応を行っている。動画の視聴状況については、LMSにて視聴時間等を正確に把握することが可能であり、十分な視聴時間を確保できていない学生に対してはメール等で指導を行っている。また、課題の提出状況や成績を通して理解度もチェックしており、視聴時間と課題の正答率の両方で基準を満たしていない学生をリストアップし、メール等を通して学生に注意喚起を行うなど必要な対応を行っている。これら情報については担当者間でリアルタイムで共有する体制を整えている。
学修成果	両科目とも、LMSにて毎回課題を提出することを義務付けており、その提出状況及び正答率を通して学生の理解度や学修成果を確認している。これらの課題の提出と正答率は、当該の回の出席の条件となっているため、担当者間でリアルタイムで共有している。プログラム終了時には、教育開発センター及び教養教育運営委員会分野別小委員会（情報分野）にて学修成果に関する情報を共有し、次年度の教育プログラムの評価・改善に活用する体制となっている。
学生アンケート等を通じた学生の内容的理解度	就実大学・就実短期大学では、全科目について授業評価アンケートを実施している。その中では理解度をはじめとする学修成果に関する情報を収集する質問項目がいくつか含まれている。具体的には、「この授業を受講したことで、授業内容に関する知識や技術などが向上したと思いますか」という問い合わせ（Q9）や、「授業内容は、最終的にシラバスに記載された学修到達目標に達するものになっていたと感じましたか」（Q10）、「あなたはシラバスに記載されたこの授業の学修到達目標に自分自身が十分に到達したと思いますか」（Q11）等である。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の肯定的な評価を行った学生は、Q9が94%（情報リテラシー）と95%（数理・データサイエンス基礎）、Q10が96%（情報リテラシー）と97%（数理・データサイエンス基礎）、Q11については95%（情報リテラシー）と93%（数理・データサイエンス基礎）であり、いずれの質問項目も非常に高い数値となっている。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	生活実践科学科については必修科目のため、履修の推奨等についての特別な調査は必要としていない。ただし、学生のモチベーションを高めるために、今後もデータサイエンス教育の必要性・修得の必要性を積極的にアナウンスしていく予定である。 幼児教育学科については、選択科目ではあるものの、データサイエンス科目の必要性についての指導を十分に行った結果100%の履修率となっており、履修の推奨等の調査は必要としていない。ただし、こちらについても学生のモチベーションを高めるためにも、今後もデータサイエンス教育の必要性・修得の必要性を積極的にアナウンスしていく予定である。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	生活実践科学科については必修科目であるため、履修率の向上に向けた計画を必要としていない。幼児教育学科については、選択科目ではあるものの、データサイエンス科目の必要性についての指導を十分に行なった結果100%の履修率となっている。今後もデータサイエンス教育の必要性・修得の必要性を積極的にアナウンスしていく予定である。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路・活躍状況、企業等の評価	令和4年度入学生より開始したプログラムであるため、令和6年度以降の卒業生調査等において修了者の進路・活躍状況・企業評価等の把握が可能となる予定である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本プログラムは2022年度より開始されているが、2022年度分の教育プログラムの点検・評価の際（2023年度実施）に、本学の「自己点検・評価・改善に関する外部評価委員会」にて、専門教育プログラムの点検・評価とあわせて本プログラムの点検・評価が行われることになっている。本学の外部評価委員会には、産業界から選出された委員が2名いるため、その段階で、産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見が集約することができる。外部評価を含む自己点検・評価の結果は次年度以降のプログラムの改善に繋げられる仕組みが作られているため、今後、産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見を反映した改善が随時行われていく予定である。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	「数理・データサイエンス基礎」では、時事的な内容を取り入れたコンテンツを準備しており、「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を十分に理解し、積極的な学びを促すことが可能なものとなっていると言える。実際に、授業評価アンケート（「授業内容に興味や関心を持つことができ、理解できるものでしたか」）でも、9割以上の学生が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えている。自由記述回答でも、「新鮮で面白かった」「新たな知識を得ることができた」等の肯定的な意見が多く寄せられた。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	授業評価アンケートでは、「あなたはシラバスに記載されたこの授業の学修到達目標に自分自身が十分に到達したと思いますか」についての調査を行っている。「情報リテラシー」「数理・データサイエンス基礎」とともに9割以上の学生が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している。同様に「教材（印刷資料・板書・視聴覚資料・eラーニング・課題など）は、有効かつ適切だったと思いますか」、「授業の手法・進め方は、有効かつ適切だったと思いますか」という問についても、それぞれ約95%の学生が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している。現時点では十分に内容・水準を維持しつつ分かりやすい授業を提供することに成功していると言える。今後、さらにブラッシュアップを重ね、より分かりやすくかつ高度な内容を伴う授業としていくことができるよう検討を進める。